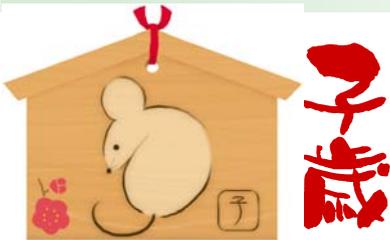


山雲水月

発行責任者 仁叟寺 住職 渡辺啓司



平成20年戊子 住職年頭挨拶

謹賀新年

おんごちしん
「温故知新」

→ 『仁叟寺誌』



平成20年 仁叟寺年間行事予定

- 1/1~1/3 年頭祈祷・年賀受
- 1/4~1/7 年始挨拶
- 1/10 年賀寺例
- 2/3 大節分会
- 2/15 釋尊涅槃会
- 3/9 大般若会・施食会法要
- 3月中旬 筆供養法要
- 3/18~3/24 春季彼岸会
- 4/8 釋尊降誕会(花祭り)
- 6月中旬
第46回青年会緑蔭禅の集い
- 7/13~7/16
京浜地区孟蘭盆会
- 7月下旬
第27回子供禅の集い
- 8/10 中元寺例
- 8/13~8/16 孟蘭盆会
- 9/20~9/26 秋季彼岸会
- 10/18 檀信徒研修参拝旅行
- 12/8 釋尊成道会
- 12/10 歳暮寺例
- 12/31 除夜会
- 毎週土・日曜日
書道教室
- 毎週水曜日
定例坐禅会
- 隔週水曜日
華道教室・梅花講稽古

昨年も各地よりの参拝者をはじめ、坐禅会等の各種研修会参加者が多数来寺されました。特に七年余りを掛けて発刊された『仁叟寺誌』は、宗教界はもとより各界より大きな評価を賜りました。

また、秋に一ヶ月間開催されました「仁叟寺の文化財展」は、町内外より一千名を超える来場者があり、好評を博しました。

仁叟寺はおよそ六百年前に奥平に創建され、約五百年前の大永二年(1522)に神保に移転再建されました。爾来、火災戦災等に遭うことなく永き伝統と県内屈指の高い格式を保ち続け、三十代の歴代住職、外護者、檀信徒及び地域社会の皆様に大切に護持され、正に先人の並々ならぬ信心と努力の結集により、今日に至っております。昨年は、その歴史を改めて見直す年でもありました。

本年も正縁に結ばれた仁叟寺と深い繋がりを持つ皆様方と共に、力を合わせ清純なる信仰心と伝統文化を護り、更には次世代に正しく継承していく所存であります。安心とやすらぎを与える寺院として日々精進して参りますので宜しくお願い申し上げます。

御本尊釈迦如来及び諸仏諸如来の限りなき御加護がありますよう祈念いたします。 合掌

平成20年 年回表

一周忌	平成十九年	二十三回忌	昭和六十一年
三回忌	平成十八年	二十七回忌	昭和五十七年
七回忌	平成十四年	三十三回忌	昭和五十一年
十三回忌	平成八年	五十回忌	昭和三十四年
十七回忌	平成四年	百回忌	明治四十二年

※1 以上、各ご家庭に於いてご確認下さい。

※2 該当檀信徒各家には封書にて通知が届きます。

「仁叟寺の文化財展」 盛会裏に圓成

吉井町郷土資料館主催による特別企画展「仁叟寺の文化財展～仁叟寺の歴史 寺と檀徒・地域とのかかわり」が、昨年10月27日（土）～11月25日（日）に掛けての約一ヶ月に亘って開催されました。会場は資料館のほか仁叟寺を第二会場として展示。また、『仁叟寺誌』でもお世話に
ほんまとしお おかべひろし
 なった本間紀男・岡部央両先生による記念講演も開催され、上毛新聞にも記事が掲載されました。

折りしも吉井町郷土資料館開館35周年という節目の年であり、延べ

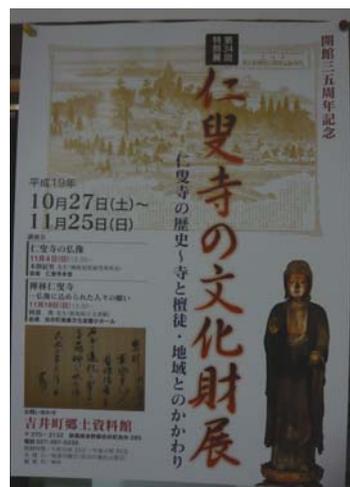


↑ 本間紀男先生による記念講演
 （於、仁叟寺本堂）

（会長・加藤幸夫氏）を中心としたボランティアの皆様方にはお世話になりました。改めまして、厚く御礼申し上げます。

千名を超える方々のご来場を賜り、盛会裏に行うことができました。二会場での開催や二度に亘る高名な先生による講演会など郷土資料館企画展として、稀に見る盛大な展示会となりました。

なお、同企画展では特に吉井町郷土資料館友の会



↑ 企画展ポスター



↑ 企画展風景（資料館）

仁叟寺探索-18- 「蚕影山画幅」

こかけさんそう おうしょさい

今回の仁叟寺探索では、掛軸「蚕影山像（應處齋筆）」の紹介をいたします。

明治元年（1868）、應處齋臨淵64歳当時の作品であり、吉井町重要文化財にも指定されております。

應處齋臨淵（1805～70）は、吉井町片山の人。本名、横尾佐十郎義之。遠祖は信州池田藩士といわれております。江戸御絵所・狩野探淵守真に三年間学び、第一高弟となり、師の位牌を守り帰郷しました。高崎藩絵師となり、門弟280人余。山水・仏画・鶴・亀・人物画などがあり、仁叟寺はじめ辛科神社・穂積神社などの寺社に現存しております。

仁叟寺には、鐘楼堂天井絵（嘉永6年(1853)）・開山堂天井絵（慶応3年(1867)）のほか、「蚕影山像」・「如意輪観音菩薩像」の画幅が現存。いずれも絹本彩色の画幅であり、保存状態も極めて良好であります。特に蚕影山像の軸は、毎年恒例の大般若会の際に本堂に掲げられ、「養蚕倍盛」の祈願を執り行っております。平成15年（2003）に、神保佳玄氏寄進により、軸の修復が施されました。

→ 町指定重要文化財應處齋臨淵筆「蚕影山像」



【特別寄稿】北毛の名刹を訪ねて 新井徳衛

恒例となる秋の仁叟寺檀信徒研修旅行が、10月20日（土）開催されました。前日までの雨もすっかり上がり、東堂ご夫妻さまに見送られ、住職ご夫妻さまはじめ36名もの参加者と共に出発。車窓からの眺めは紅葉には少し早いが絶景でした。

先ず、天狗様で有名な迦葉山さま。開運守護の御利益あらたかなる諸堂を見学。特に研修道場での太鼓は牛2頭分の皮を使用。その雄大さに吃驚いたしました。全員でご祈祷を受け下山。次に遊神館で昼食をたっぷり頂き、たくみの里ではご住職夫人の発案により押し花作りを楽しみました。

次いで泰寧寺さま。鎌倉時代末期の創建であり県指定重要文化財の山門・須彌壇・欄間など十分鑑賞させていただきました。

最後に、仁叟寺のご本寺である最大山雙林寺さま。広大な寺院であり鬱蒼とした老杉の参道は、往年の風格が偲ばれます。52世石附正賢住職さまからの寺院の由来と「七不思議」のご説明を受けました。雄大な伽藍を拝見し、帰路に就く。

各寺院共にバスの発着からお出迎え・お見送りいただき、礼儀作法のお手本でございました。感謝申し上げます。また、バス車内では見所を詳しく説明してくださいました長谷川寛見先生にお世話になりました。秋の好時節の一日の旅は、身も心も仁叟寺晴れに恵まれました。日も暮れた午後6時30分に東堂ご夫妻さま俊司和尚さまはじめ寺院関係者に迎えられ全員無事に帰寺。ありがとうございました。



↑ご本寺雙林寺さまにての集合記念写真

吉井町仏教会50周年式典開催



↑三遊亭好楽師匠

昨年11月18日（日）に、吉井町仏教会発足50周年記念式典が吉井町産業文化会館にて開催されました。齋藤軍雄吉井町長はじめ教育長など来賓ご臨席のもと、記念式典は荘厳に修行されました。記念式典終了後には、講師として住職と旧知の友人である落語家・三遊亭好楽師匠の高座を楽しませていただきました。当式典では、会場が満席になるほどの参加者が見えられ、盛会裏に無事圓成する事が出来ました。

吉井町仏教会は、弘福寺住職高橋隆光会長のもと現在所属寺院22ヶ寺によって運営されております。宗派を超えた交流があり、昭和32年（1957）に発足した当初は、初代会長を仁叟寺渡辺石橋住職（当時）が、第4代会長を仁叟寺渡辺隆司東堂が務め、戦没者供養・講演会・研修会・燈籠流しなどの諸行事を行ってまいりました。

節目となる記念式典も圓成でき、同会のこれからの活動も更に隆盛になるものと思っております。



↑記念式典風景

【総代長新年挨拶】

総代長 金子明

明けまして、おめでとうございます

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

お蔭様をもちまして、仁叟寺の年中行事もいよいよ隆盛を極め、誠に有難く感謝申し上げます。

特に昨年度は、懸案の『仁叟寺誌』も目出度く刊行され、はたまた吉井町郷土資料館開館35周年を記念した仁叟寺文化財特別展や斯界の権威・本間紀男、岡部央両先生による仏像講演会も、吉井町教育委員会の主催、郷土資料館友の会の皆様方のご支援ご協力を頂いて盛大に開催する事が出来、これまた仏恩の賜物と深謝いたしております。

さて、既にご報告申し上げておりますが、仁叟寺の貴重な仏像は、創建以来六百有余年の歳月を経て、その損傷や変容が激しく、最早修復が急を要する形相を呈しております。

かつて東京藝術大学の名誉教授で大仏師法印そして京都愛宕山念仏寺の住職でもあった西村公朝老師は、その著書『仏像は語る』

『仏像の声』の中で“仏像は仏の姿を形として現したもので、仏教の真髓即ち慈悲の心が込められた尊い存在であり、その修理の仕方によっては仏像そのものの運命が変わってしまう”と述べられております。

即ち、その仏像が造仏された時代や故事来歴等、詳しく考証され、敬虔な仏師によって、丁寧に仏像本来の姿に修復される幸せな仏像もあれば、時の渡り仏師によって適当に修理されたり、ただ自然に放置されたまま、

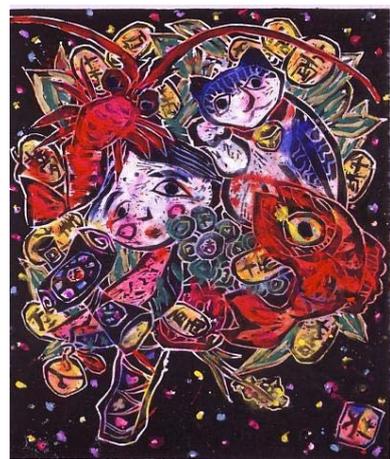
空しく朽ち果てて行く不幸せな仏像も多々あるとのことであります。

思うに、仁叟寺に安置された由緒ある仏像は、多年に亘って私達代々のご先祖様に篤く尊崇され「迷己逐物」の煩悩を滅して平安な人生を歩むべく仏道を教え導いてくださった誠に有難い仏様でもあります。

この貴い仏様を大切に、しかも幸せな仏様として子々孫々に引き継いで行く事は、現世に生きる私達の大切な義務ではないかと考えられます。

尚、そうした仏像の修復につきましては、役員会で協議の上、檀信徒の皆様方にご相談いたしたいと存じますので、その節は何卒宜しくご高配ご協力の程、お願い申し上げます。

とまれ今年がまた、檀信徒の皆様にとりまして、よりよい年でありますよう、御多幸とご健勝をご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



仁叟寺総代人一同

金子 明	篠崎和男	関口益雄
春山 繁	井上正俊	矢島正義
宮澤二三夫	新井徳衛	森 久

行雲流水（編集後記）

編集人 副住職 渡辺龍道

明けましておめでとうございます。昨年は『仁叟寺誌』の刊行がありました。刊行までの道程は決して平坦なものではありませんでしたが、多くの方々のご尽力ご協力の元、立派な歴史書が作製出来ました。更にはそこから仏像修復事業、文化財展等に発展をしていくことも出来ましたこと、有難いご縁という他ありません。また、現在お役を頂いている曹洞宗群馬県宗務所梅花主事も一年が経過いたしました。記念行事等もあり、また責任ある配役ゆえ大変ではありますが、初心を大切に、精進をさせて頂こうと思っております。本年も宜しくお願い申し上げます。

